

団体運営費補助金調査票（表）

補助金名	伊能歌舞伎補助金
------	----------

担当課	教育部 生涯学習課					実施主体	伊能歌舞伎保存会	
科目・事業コード	会計	款	項目	事業		R06 予算額	1,000	千円(※)
	一般	10	05	05	25 - 06	R05 予算額	1,000	千円
新規・継続の別	継続					R04 決算額	0	千円
補助・単独の別	市単					R03 決算額	0	千円
補助の種類	団体運営費							
交付開始年度	平成	18	年度	終了予定年度	事業費補助へ転換	※事業費補助金額		

事業の目的・概要	伊能歌舞伎保存会は、農村歌舞伎の保存、伝承、後継者の育成、公開を目的として秋の定期公演等を実施することにより、地域の文化振興及びその担い手としての意識高揚を促している。 市として、当該団体に補助金を交付し、運営及び活動を支援することにより、伝統芸能の継承を推進する。	補助対象事業	①伊能歌舞伎の上演 ・秋の定期公演 ・伝統芸能まつり ・その他各種公演 ②伊能歌舞伎の稽古 ・師匠指導による稽古 ・自主的な稽古 ③視察研修 ・他地域の地芝居視察																				
根拠法令等	・成田市補助金等交付規則 ・伊能歌舞伎保存会補助金交付要綱	補助基準等																					
留意事項		補助	・補助基本額 1,000千円																				
決算内訳	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="3">令和 4 年度決算額 (単位：千円)</th> </tr> <tr> <th>収入額</th> <th>支出額</th> <th>翌年度繰越金</th> </tr> <tr> <td>354</td> <td>58</td> <td>296</td> </tr> <tr> <td>収入額の内 自主財源</td> <td>市補助金額</td> <td></td> </tr> <tr> <td>354</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自主財源比率</td> <td>繰越金/補助金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>100.0%</td> <td>#DIV/0!</td> <td></td> </tr> </table>	令和 4 年度決算額 (単位：千円)			収入額	支出額	翌年度繰越金	354	58	296	収入額の内 自主財源	市補助金額		354	0		自主財源比率	繰越金/補助金		100.0%	#DIV/0!		補助率・額
令和 4 年度決算額 (単位：千円)																							
収入額	支出額	翌年度繰越金																					
354	58	296																					
収入額の内 自主財源	市補助金額																						
354	0																						
自主財源比率	繰越金/補助金																						
100.0%	#DIV/0!																						

団体運営費補助金調査票（裏）

評価項目	内 容	評 価	評 価 理 由
公益性	基本構想、実施計画、個別計画など市の施策の方向性と合致しているか	はい	伊能歌舞伎保存会では、伊能歌舞伎の上演を通じて文化財への関心、理解を深める活動を展開しており、成田市総合計画の基本施策に掲げる「成田の地域文化や伝統を学ぶ」に合致する。
	市民の利益に寄与することができるか（「はい」の場合、選択式）	はい	イ、文化・芸術・スポーツ等の推進に寄与することができる活動に該当
	市民協働を推進する目的があるか	はい	文化継承のため、人材育成を行い、子どもたちへの指導も行っている。
	事業を実施できる団体は他にないか	はい	特になし
必要性	事業の目的・視点・内容が、社会経済情勢や市民ニーズに適合しているか	はい	地域の歴史、民俗に対する関心を持つ市民は一定数おり、秋の定期公演にも多数の来客があることから、ニーズに適合している。
	市が関与する必要性があるか	はい	指定文化財であることから、各種公演実施にあたり、会場確保、講演情報発信等の支援をしていく必要がある。
	事業を実施しなかった場合に、大きなマイナスの影響があると認められるか	はい	事業を実施しなければ、保存会の存在意義が薄れ、また衰退につながっていき、その結果文化の継承が途絶える可能性がある。
	類似の事業はないか	はい	特になし
適格性 (妥当性)	団体等の活動内容が、補助目的と合致しているか	はい	令和3年度から令和5年度についても、定期公演等が計画されており、補助目的と合致する。
	団体を支援するに当たり、補助金の交付が適切な手段であるか	はい	文化財についての関心、理解を深めることを目的とする事業であり、自主財源のみでは活動が限定的となるため、これを補完する必要がある。
	団体の会計処理や補助金の使途は適正であるか	はい	事業計画書に沿った処理がされている。領収書、預金通帳等により使途を確認できる。
	団体の決算における繰越金（剰余金）が補助金の額を超えていないか	はい	R04年度決算：補助額0千円、繰越額296千円
	対象経費は、規則・要綱等により規定されているか	はい	伊能歌舞伎保存会補助金交付要綱により、補助対象経費を定めている。
有効性 (費用対効果)	補助金を交付することによる効果を明確に示すことができる指標等はあるか	はい	定期公演の来客者数（H29：450人、H30：450人、R01：450人） ※新型コロナウイルス感染拡大により、R2～R4については、活動を休止
	補助金額に見合う効果があると認められるか	はい	定期的な稽古、公演の実施を通じて、伊能歌舞伎の保存、継承がなされている。
	事業を継続するうえで、補助は必要不可欠であるか	はい	当該団体の主たる財源は会費の他、市からの補助金であることから、安定的は運営を図るためにも、市が支援する必要がある。
	補助期間（終期）を設定しているか	はい	令和8年度を終期としている。

最終評価	転換
評価者 所見	市指定文化財となっている伊能歌舞伎の保存、上演を目的とする団体であり、元禄時代から続いたとされる無形民俗文化財を保存・継承していく団体として公益性が高いと考える。一方で、後継者不足等の問題から自主財源の大幅な増加は見込めないことから、補助を継続する。 しかしながら、公演開催に係る事業に対する補助のため、事業費補助金として整理する。